

「いなほ公園」の整備について

問

幕別町には58の街区公園や近隣公園、緑地を含め84の都市公園がある。

その中で唯一の地区公園であるいなほ公園は、その名称のとおり、以前は水田地域であったので、公園内にも地域の人々の協力により稲作が行われていたが、現在は中止されており、隣接する自然池も、立ち入り禁止の看板が有り、大変危険な状態になっている。整備の必要があると思うがどうか。

また、いなほ公園は4・64ヘクタールの広い公園で、町外の人々が団体で利用することも多く利用者は多いようだが、公園内には日陰が少なく、また、座つて憩うことのできるような施設も少ない。

地区公園は、主として徒歩圏内の居住する者の利用に供することを目的とし地域の人々が、容易に利用することができる範囲内に配置すること。

幕別町緑の基本計画にある、町外の人々の利用も良

いが、もっと地域の高齢者から子どもまで、多くの人々が利用しやすい公園として、整備すべきだという要望が、特に地域の高齢者の人々からある。

札内北公園のようにはいかないまでも、地域の人々が、多少ゆつくりと憩えるような空間として整備すべきだと思うがどうか。

町長

いなほ公園は、平成6年度より平成12年度までの6年間にわたり、都市計画地区公園として整備を行ってきた。子どもたちが水に親しめるような遊水地・遊水路・遊具・トイレを設置した物見台のほか、芝生公園や、自然池などが整備され、町内外より多くの方々に利用されている。

自然池の整備については整備当初、この地区が十勝の水田発祥の地であったことから、自然池に隣接し水田を造成し、地域公区の協力を得ながら、子ども会での稲作体験の場として利用してきたが、現在は利用されていない状況にあり、今

後は、自然池と一体的に水芭蕉、シヨウブなどを植栽し、憩いの場となるように整備したい。

利用しやすい公園整備として日陰や休息ベンチの整備ですが、公園施設には開放的空間や団体的利用時のための広々とした芝生広場など、多目的に利用が可能な施設づくりが大切だと考え整備がされてきた。

日陰については、整備後、年数もまだ浅いことから、今は木の成長とともに木陰もできるものと考えている。

施設各所に休息所、ベンチを配置しており、遊水路もベンチ代わりに座れる工夫をして整備した経緯もあり、現在のところ大規模な改修計画の考えはないが、利用者の皆さんの声も聞きながら意を用いたい。



いなほ公園

※一般質問の質問内容及び答弁内容は要約してあります。